

認知症の早期発見、早期介入モデル確立に期待

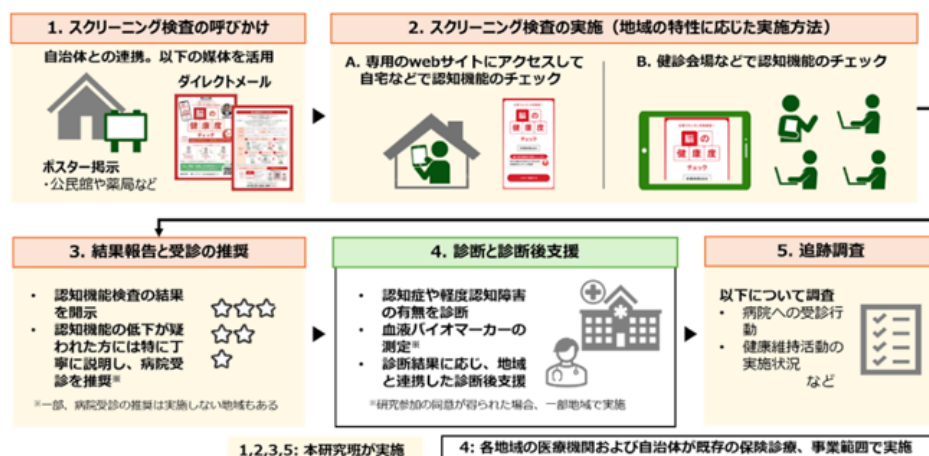
◆ 認知症早期発見・早期介入モデル確立に向けた大規模実証研究開始

2024年11月21日、国立長寿医療研究センターは、東北大学、鳥取大学、鹿児島大学、秋田大学、神戸大学、医薬基盤・健康・栄養研究所、札幌医科大学、東京都健康長寿医療センターと共同で、大規模実証研究「J-DEPP研究（JAPAN DEMENTIA EARLY PHASE PROJECT）」を開始したことを発表¹⁾した。この研究は、認知症リスクの早期発見と早期介入のための日本独自のモデルを確立することを目的とし、以下の3つの課題に取り組むものだ。

- ① 認知症リスク早期発見の大規模実証
- ② 認知症リスクを調べるための検査の基準値の設定
- ③ 認知症リスク早期発見に向けた血液バイオマーカーの有用性の検証

① 認知症リスク早期発見の大規模実証：（下図参照）

全国41の自治体と協力し、1万人以上の高齢者を対象に様々なスクリーニング検査を実施する。病院受診が必要であると判断された人に



出典：国立長寿医療研究センター プレスリリース資料 大規模実証の全体像

は、受診を促す。地域包括支援センターや認知症カフェなどとも連携した追跡調査を通じて、受診行動や診断後支援の実態を調査し、地域の実情に合わせた効果的なスクリーニング方法や病院受診の促進方法を検討する。また、医療機関の受診や予防に向けた活動が妨げられている状況があれば、それを漏れなく把握し、その原因を地域ごとに明らかにしていく。

② 認知症リスクを調べるための検査の基準値の設定：

愛知県と宮城県の高齢者約1,000人を対象に複数の認知機能スクリーニング検

査を実施し、判定結果に差異が生じない基準値を明らかにする。各自治体が異なる検査を選択しても全国統一的基準で病院受診を推奨可能になることを目指す。

③ 認知症リスク早期発見に向けた血液バイオマーカーの有用性の検証：

認知機能低下の疑いのある人を対象に、血液バイオマーカー検査を実施する。通常の検査と血液バイオマーカー検査を組み合わせた場合の診断精度の違いや、アルツハイマー病の治療薬使用の対象者選定への有用性などを検証する。

◆ 認知症発症の危険因子と認知予備力

認知症と診断される前段階あるいは初期の段階であれば、運動習慣や食生活の改善などにより認知機能低下進行を抑えることが可能といわれている。

医学誌「The Lancet」の常任委員会は2024年報告書(24年7月31日)で、前回の2020年報告書であげていた12の認知症危険因子にLDLコレステロール値の高さと

視覚の喪失を追加し、14の危険因子を特定した。そして、これらの危険因子を取り除くことにより認知症は発症を遅らせたり、軽減したりできる可能性があり、その合計比率は45%になると報告している。また、認知機能を減衰させる神経病理学

段階	PAF	危険因子
幼少期(0~18歳)	5%	少ない教育(Less education)
中年期(18歳~65歳)	7%	難聴(Hearing loss)
	7%	LDLコレステロール値の高さ(High LDL cholesterol)
	3%	うつ病(Depression)
	3%	外傷性脳損傷(Traumatic brain injury)
	2%	運動不足(Physical inactivity)
	2%	糖尿病(Diabetes)
	2%	喫煙(Smoking)
	2%	高血圧(Hypertension)
	1%	肥満(Obesity)
	1%	過剰なアルコール摂取(Excessive alcohol consumption)
晩年期(65歳以上)	5%	社会的な孤立(Social isolation)
	3%	空気汚染(Air pollution)
	2%	視覚の喪失(Visual loss)
	45%	全危険因子合計

※PAF：人口寄与危険割合（この危険因子が取り除かれた場合の認知症の症例の割合減少を表すもの）

出典：Dementia prevention, intervention, and care: 2024 report of the Lancet standing Commission July 31, 2024 を元にARC作成

的变化に耐えて、認知症を発症させない能力（認知予備力）が存在し、それは身体的、認知的、社会的活動によって高められるものであることが、多くの研究によって裏付けられていることも報告している。

認知機能の低下の早期発見・早期介入の重要性が現時点で周知されているとは言いがたく、発見の遅れや介入の遅れは珍しくないはずだ。J-DEPPの実証研究が結実し、日本全国で標準的に認知症リスクの検査が早期に行われ、本人と周囲にも早期介入が当たり前となることで、認知症発生率の顕著な低下につながることに期待したい。

【佐伯章文】